

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	児童発達支援センターいっぽ		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 5日		2026年 2月 6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	105	(回答者数) 41
○従業者評価実施期間	2026年 1月 5日		2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数) 12
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 11日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動場所、生活空間として十分なスペースが確保できており、子どもたちが過ごしやすいように刺激を減らし、バリアフリーを意識している。また、日々の清掃、消毒により、衛生管理を徹底している。	<ul style="list-style-type: none"> ・教室内の環境設定は、各クラスの様子に応じて柔軟に変更している。 ・活動によって臨機応変に場所を変えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・収納スペースの確保。廊下に出ている備品類を適切に収納できるよう検討する。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者向けの勉強会（子育て講座）を年間で複数回実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全クラスの保護者を対象にお知らせを配布して参加を募っている。（一部の講座は年長児保護者に限定） ・テーマも、認知発達について、コミュニケーションについて、体の動かし方についてなど、変化をも手せている。 ・ペアレントトレーニングを開催している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアレントトレーニングは、内容の周知が不十分であることも考えられ、次年度は具体的な内容を示して参加希望者を募っていく。
3	概ね、子どもたちは安心感をもって楽しみに登園してきている。	<ul style="list-style-type: none"> ・各クラス、活動の中で子どもたちがそれぞれに楽しめるよう、達成感を得られるような内容のプログラムを提供している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一つ一つの活動の意図、目的を保護者に分かりやすく説明し、ご理解とご納得をしていただけるよう努める。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者同士の交流の機会が少ない。 ・または、実施していてもその周知や内容が保護者のニーズに対してまだ不十分。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスによって保護者登園日（保護者懇談会）の流れや内容に濃淡が出ている。 ・クラス懇談会や父親懇親会など、保護者交流の機会にインフォメーションが行き渡っていない可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周知の徹底。 ・クラス懇談会での内容の検討と、事業所内全クラスでの共有。
2	災害時、緊急時の対応方針、安全対策など、事業所として準備しているものの保護者への周知がまだ不十分。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日クラスでは避難訓練、引き渡し訓練など、ほぼすべてのタイミングで実施できているが、就園クラスなどでは曜日や時間帯によって当たらないクラスもあり、周知にムラが出ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練などは、参加するクラスには事後の報告を徹底し、保護者にも取り組みを知ってもらえるように努める。 ・全体に向けた周知を増やし、事業所としての取り組みを保護者にご理解いただく。
3	他園との交流、または地域との交流が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度は、地域のこどもセンターを活用したプログラムを実施し、今後も続けていけそう。 ・一方で、他園との交流については、企画・実施ができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和8年度は他園との交流を企画・実施していく。 ・地域と連携して、事業所やクラスの活動の中に社会資源を取り入れていく。